「茂小っ子」通信

Ｒ６．５．２
茂原小学校
【１号】

【和来】＜すべての子供たちと共に！＞

この「茂小っ子」通信は、「茂小時報」特別号として、子供たちのキラッと輝く姿や心が温まったり、考えさせられたりするエピソードと本校の目指す児童像やこうあってほしいという姿を重ね合わせ、保護者の方々へ紹介したいと考え、不定期となりますが昨年度からお届けしています。是非、ご一読ください。

と、その前にタイトル下の**【和来】**ですが、「わらい」と読ませる自作の造語です。「笑い」は、人の心を**和**ませ、**和**らげます。そして、「笑い」あるところには、自然と「輪」（繋がり）が出**来**るとともに、人間関係において潤滑油ともなり、心に安心感やゆとりをもたらします。私自身「明日もみんなの笑い声が聞きたい、みんなの笑顔が見たい。」とストレートに伝えることのできる、そして、その気持ちを常に持ち続けていられる校長でありたいとの想い、また、職員もそうであってほしいという願いを込めています。

＜6年生が寄り添う姿に…＞

６年生が恒例でもある、１年生登校後のお世話（荷物整理や提出物等）をするために学級に出向いてくれています。

保育所や幼稚園等では、年長さんとしてみんなのよい手本となり、模範を示してくれていたことと思います。しかし、小学校に入学するや否や、１年生として面倒を見られる側となってしまいます。でも、これも致し方のないことです。

環境が一変し、登校後のシステムや用語等も理解できない中、当然不安だらけです。それを解消するためにも、６年生がそっと声をかけ、ときには手伝いをしてくれます。中には、泣いている１年生もいますが、腰・膝を折り、そっと肩に手をあてる姿も見られます。これは、６年生にとっても心の成長につながる、貴重な時間となっています。

＜授業参観では？（緊張、高揚、いつもどおり…）＞

登校の子供たちとの会話では、「お父さんも来てくれる」「得意な算数だから、いっぱい発表しよう」「今日は、人がたくさん来るから嫌だな」等々。

子供によっては、授業展開の教科で得意・不得意があり、気持ちの乗りように違いもありますね。自身も思い起こしてみますと、平常心というわけにはいかなかった記憶が…。

親が授業参観に来てくれることは、子供たちにとって特別なことです。また、大勢の保護者が訪れ、見られていると思うと意識せずにはいられません。しかし、これもまた貴重な経験であり、このような時間を多くつくりたいものです。　　（文責：校長）